

第10回

情報通信審議会 情報通信技術分科会

ITU部会 電気通信システム委員会議事概要

1 開催日時及び場所

平成 28 年 6 月 24 日(金) 10:00～11:20

於、総務省 共用10階会議室

2 出席した委員及び専門委員(敬称略)

平松 幸男(主査)、前田 洋一(主査代理)、植松 友彦、岡村 治男、加藤 圭、
厚東 肇、高田 芽衣、内藤 悠史、永沼 美保、森田 純恵、森田 直孝、山條 朋子

3 事務局

中西 悦子(通信規格課 課長)、成瀬 由紀(通信規格課 国際情報分析官)、
平野 友貴(通信規格課 課長補佐)、佐々木 大祐(通信規格課 係長)、
塩崎 充博(電気通信技術システム課 課長)

4 議題

- (1)ITU-Tの検討状況の概要について
- (2)WTSA-16の概要について
- (3)その他

配布資料

- 資料10-1 ITU部会電気通信システム委員会構成員一覧
- 資料10-2 ITU-T検討状況の概要について
- 資料10-3 世界電気通信標準化総会(WTSA-16)の概要について

5 議 事

- (1)ITU-Tの検討状況の概要について

資料 10-2 に基づき、事務局より説明。

- (2)WTSA-16の概要について

資料 10-3 に基づき、事務局より説明。

主な質疑は以下の通り。

- ：将来、ネットワークのバーチャライゼーション、ソフトウェア化、ICT機能の他産業への普及など、IoTなどは一番典型的な例であるが、そういうものがこれから重要になってくる。
- ：今、5Gで話題になっているアクセス系をサポートする技術が期待されており、国内での検討も加速しているところ、その成果が出る場所として SG15 は今後とも重要である。

- ：WTSAの SG 再編が気になるところである。TSB 局長から出された次研究会期の SG 体制の試案の問題意識は何か。
- ：SG15 は成果が見えるが SG13 等はフレームワークのみで実装できる勧告まで至っていない、実装できる勧告まで持っていくためには SG15 と同じ SG にすべきではないかということが局長の問題意識である。

- ：アジアで技術的な議論をして、アジアの規格をつくるような場所が必要である。ASTAPがあるが、まだ、標準規格を作成するところまでは至っていない。
- ：ITU-Tのやるべきことの中に、途上国との情報格差の縮小がある。APTの役割がこれから非常に重要になってくる。
- ：日本が産業を持続的に維持していくには、途上国との連携が大事である。
- ：情報通信産業界の今後の発展の余地があるとすれば、途上国である。しかしながら、ITU-Tでは、そこを開拓する努力が始まっていない。

(3)その他

次回会合は、9月頃に開催する旨、事務局より説明。

以上